

国連気候変動枠組条約 COP28 サイドイベント傍聴レポート  
国際炭素市場でのモロッコの経験：パリ協定 6 条の準備と運用化  
Morocco's experience in international carbon markets: Readiness and  
operationalization of Article 6

(一社) 海外環境協力センター (OECC)

- 日時：2023 年 12 月 5 日（火）13:15–14:45（現地時間）
- 場所：Side event room 5（ハイブリッド開催）
- 主催：モロッコ政府, Gold Standard Foundation (GSF), Zurich University of Applied Sciences (ZHAW)
- スピーカー：Rachid Tahiri, Ministry of Energy Transition and Sustainable Development (MTEDD), Kingdom of Morocco; Anselm Duchrow, GIZ Morocco; Anas Felhi, KliK Foundation; Pedro Venzon, IETA; Fenella Aouane, GGGI; Sigrid E. Valberg, Ministry of Climate and Environment (NMCE), Government of Norway; Alexandra Soezer, UNDP; Hugh Salway, Gold Standard Foundation; Axel Michaelowa, Perspectives Climate Research;
- 参加者数：対面により約 100 名  
概要：本サイドイベントでは、モロッコ政府およびパートナー国やドナーとの協力によるパリ協定 6 条実施に向けた取組および革新的な政策的クレジットアプローチ（policy crediting approach）の取組について情報共有と議論が行われた。まず、モロッコのエネルギー移行・持続可能な開発省からはパリ協定 6 条実施のロードマップや制度的インフラの整備の進捗が共有された。次に、GIZ からモロッコの NDC 実施のための資金動員や必要資金の分析について共有された。その後、モロッコ政府と協力を行うステークホルダーとして、Klik 財団からは 6 条 2 項によるモロッコとの協力状況について、IETA からはホスト国政府による民間セクターへの関与の必要性について紹介された。そして政策的クレジットアプローチについて、GGGI からはモロッコの再エネ分野における政策的クレジットアプローチの検討について、ノルウェー気候・環境省からはクレジット調達の立場からの期待について、および Gold Standard からはクレジット制度としての取組について、それぞれ紹介された。最後に、質疑応答では、クレジットの取引価格の捉え方と政策的クレジットアプローチの追加性について質疑が行われた。
- 開会挨拶：中東・北アフリカ（MENA）地域の国際炭素市場 [Rachid Tahiri, Ministry of Energy Transition and Sustainable Development (MTEDD), Kingdom of Morocco]
- ✓ モロッコは国家気候変動計画などを策定し、最近では第 5 次国別報告書（NC）、第 1 次隔年透明性報告書（BTR）および NDC の更新を開始している。炭素市場にとって透明性は重要であり、モロッコは透明性の強化に注意を払っている。

- ✓ モロッコでは 16 の CDM プロジェクトが登録されており、その内 5 つが CER を発行した。6 条 4 項メカニズムへの移管の対象となるプロジェクトが 8 つあり、風力発電、浄水、バイオマス発電、集光型太陽光発電、バイオガス回収などのプロジェクトが含まれる。
- ✓ パリ協定 6 条について、スイス、ノルウェー、シンガポール、韓国と協力を開始している。6 条 2 項の実施準備のために世界銀行のツールである Mitigation Action Assessment Protocol (MAAP) の International Transfer Readiness under Article 6 of the Paris Agreement (ITR) を活用し、UNDP や他パートナーと枠組みを構築した。
- ✓ 6 条協力で適格となるポジティブリストの対象は NDC の条件付きプロジェクトおよびコストの高い技術であり、非適格となるネガティブリストの対象は NDC の条件なしプロジェクトおよびコストの低い技術である。また、両リストに含まれない分野についても個別に判断して適格となる可能性がある。

■ **発表：NDCファイナンスと6条-炭素市場を通じた官民ファイナンスの動員** [Anselm Duchrow, GIZ Morocco]

- ✓ モロッコの野心的な NDC を実施する資金として 2030 年までに約 400 億ドルが必要と推計されているが、これは過少推計されており、実際には 1000 億ドル以上が必要だと考えられ、これはモロッコの年間 GDP を超えている。
- ✓ 中東・北アフリカ (MENA) 地域ではエジプトとモロッコが気候資金の動員に最も成功しているが、モロッコの官民による気候資金の 2011～2018 年までの実績は、年間約 13 億ドルと推計され、NDC 実施の必要資金に遠く及ばない。また、民間セクターからの投資は 23% に留まっている。
- ✓ 資金の動員に向けて、政府全体とドナー全体 (世界銀行、IFD、EU 等) で協力し、NDC の実施状況の把握と NDC に沿った公共予算の編成に向けた議論を来月に行う予定である。
- ✓ 6 条の枠組みやポジティブ・ネガティブリストが何を意味するかステークホルダーが共通の理解をする必要がある。クレジットの売り過ぎは、モロッコの目標の不達成およびより多くのコスト負担につながることも理解しなければならない。また、生物多様性、社会面などのコベネフィットについて、賢い対応やクレジット購入国との合意が必要である。
- ✓ 6 条の枠組みの設計は、CDM より複雑で、ベースラインへの追加性だけでなく、公共政策に対する追加性も考慮しなければならない。

■ **コメント：**

[Anas Felhi, KliK Foundation]

- ✓ スイスの CO2 法では CO2 排出量を 2030 年までに 50% 削減することを義務付けており、klik 財団は燃料への徴税により年間約 3 億ドルの資金を得て、その一部をモロッコへ投資していく。
- ✓ モロッコ経済にとって輸出産業は重要であり、輸出の 66% は EU 向けであることから、その成長のためには脱炭素化が必要である。

[Pedro Venzon, IETA]

- ✓ IETA は昨年発表した「成功のための要素」を更新したレポートを作成しており、政府が民間セクターの投資を促進するための 7 つの要素を特定している：意図 (Intention)、野心 (Ambition)、

承認（Authorization）、十全性（integrity）、透明性（Transparency）、相互運用性（Interoperability）、能力構築（Capacity building）。

- ✓ ガーナの取組事例では、承認にかかるプロセスおよび各プロセスの担当機関を明確にしており、投資家と購入者からの信頼の向上につながっている。

[Fenella Aouane, GGGI]

- ✓ GGGI は国家の革新的な変化に着目し、政策変更によるクレジット発行に挑戦している。これは京都議定書の時代にも試みられたが、非常にチャレンジングだった。6 条 2 項では、二国間協力により柔軟性が向上している。
- ✓ GGGI は Perspectives と協働し、工業セクターにおける再生可能エネルギー導入を促進できるか、またその MRV 方法論について検討している。

[Sigrid E. Valberg, Ministry of Climate and Environment (NMCE), Government of Norway]

- ✓ 政策的クレジットアプローチにはポテンシャルがあり、ノルウェーはプログラムの前進に期待している。
- ✓ 現在の規制に対して付加価値のある政策手法を見つけ出すには時間がかかり、ホスト国は決定を急がず時間をかけて評価を行い、政策レベルのプログラムの策定のための調査を行うことが重要である。
- ✓ また、ホスト国においては、省庁による政策アプローチの違いを超えて調整することが重要である。

[Hugh Salway, Gold Standard Foundation]

- ✓ GSF は 20 年前に、最初は CDM プロジェクトに対して持続可能な開発のセーフガードなどのハードルを上げるラベリングを行う取組として開始された。現在は、6 条を活用しようとする各国に対して GSF が果たせる役割に注目している。
- ✓ GSF は、政策手法による影響を認証する方法として Gold Standard を利用できる枠組みの構築について検討している。政策レベルの追加性の考え方が従来のものとは異なっており、（モロッコ、ノルウェー、GGGI などの）様々な側面からの支援を受けられることを嬉しく思っている。

## ■ 質疑応答

Q.1 [チュニジア政府関係者]：モロッコの経験はチュニジアのものと類似しており、モロッコ政府の取組に関心がある。モロッコ政府と Klik 財団が得た教訓や成果について、どこで情報にアクセスできるか。

A.1 [Rachid Tahiri]：ベストプラクティスと教訓の共有のため 2 つの活動を予定しており、一つは地域ワークショップの開催で、もう一つは UNFCCC と協力して MENA 地域の 6 条に関する同盟（alliance）を立ち上げる予定で、継続的な情報交換が可能としたい。

Q.2 [オーストラリアからの参加者]：炭素価格について、例えば炭素価格が対策コストを下回るような場合について、その影響をどのように捉えているか。

A.2-1 [Fenella Aouane]：GGGI が検討している政策的アプローチにおいて、炭素価格の設定には対策コストが関係しており、例えば再エネ事業者のインセンティブとして必要な価格などを分析してきた。これにより、炭素取引に向けた現実的なアプローチを進めている。

A.2-2 [Anas Felhi]：Klik 財団はスイス政府に対して財団の資金提供が追加的であることを証明する必

要があり、追加的であるためには資金ギャップを埋めるものである必要がある。Klik 財団は炭素価格に対して完全に透明性を持っており、公表している年次報告書では炭素取引の平均価格は 25 ドルである。

Q.3 [スイスからの参加者]：政策的クレジットアプローチでは、政府への支払い、政府による政策実施、市民による緩和活動実施、市民への支払いなどの一連の因果連鎖があるはずだが、どのように取り組んでいるか教えてほしい。

A.3 [Axel Michaelowa]：モロッコの再エネ分野での政策的アプローチにおける追加性について説明する。これまでモロッコには法律があっても実施のための規制が整備されておらず、この法規制システムを整備してきた。重要なのはいわゆる系統強化の側面であり、現在の法規制により不安定な再エネ供給への費用が課されている。再エネプロジェクト自体は追加的ではないが、系統強化の全体コストを個別の再エネプロジェクトに按分すると、そのプロジェクトは実施されないであろう（追加的である）と考えられる。政策的アプローチでは、プロジェクトレベルと異なり、広い範囲で政策全体の枠組みを構築すべきである。

作成：渡辺 潤